

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				平成	27	年度
事業番号	837	事業名	若桜鉄道対策費			
担当課	企画課	担当係	若桜鉄道運行対策室			
総合計画に最も関連ある施策	施策	3	安心安全な暮らしづくり	連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	2	道路・交通環境の充実	事業区分	□新規 ■継続	
	主な事業	若桜鉄道対策事業				
予算区分	款	2	総務費	事業実施主体	■八頭町 □その他	
	項	1	総務管理費			
	目	21	若桜鉄道対策費	計画期間	開始	平成21年度
	事業	837	若桜鉄道対策費		終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 町民					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 若桜鉄道利用客の利便性向上及び安全安定した鉄道運行の維持。また、若桜鉄道を活用した観光振興を図る。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による軌道設備の更新、鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等管理業務					
事業の手段	どうする方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 軌道設備の更新や軌道設備の維持管理に関しては、若桜鉄道(株)に業務委託を行い実施する。駅舎管理等は町で直接管理する。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の黒字化を目指す。					
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	鉄道事業法

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし			
	A	人	輸送人員			
	B					
	C					
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし			
	E	千円	若桜鉄道(株)経営収支			
	F					
	G					
	H					

4 コスト

区分		単位	24年度	25年度	26年度		27年度		28年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	395,794	415,763	361,320	346,658	415,000	325,191	290,000
	B								
	C								
	D								
成果指標	E	千円	△ 4,738	△ 10,794	8,284	△ 33,430	100	33,267	100
	F								
	G								
	H								
トータルコスト		千円	124,085	128,528	137,267	118,390	126,095	117,122	162,476
担当職員数		人	1.0	1	1.0	1	1.0	1.0	1.0
職員人件費		千円	8,200	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費		千円	115,885	120,528	129,267	110,390	118,095	109,122	154,476
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	15,639	28,435	34,567	25,710	30,600	26,645	31,423
	県支出金(交付金・補助金)	千円	21,159	24,178	27,801	18,852	19,096	18,712	19,014
	地方債(借入金)	千円	11,400	13,300	11,900	33,900	34,700	31,900	55,700
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	28,651	27,423	29,274	29,321	31,284	29,496	43,286
	一般財源(単町費)	千円	39,036	27,192	25,725	2,607	2,415	2,369	5,053

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 27 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)
	軌道・駅舎等の維持管理及び軌道設備の更新し、地域における公共交通の維持・確保を行った。
	成果(具体的に)
	鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上を図った。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	通学・通勤や高齢者など交通弱者の生活交通の確保を図るため、大量輸送のできる鉄道としての公共交通の確保は必要である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	鉄道事業再構築事業計画を策定し、八頭町が第三種鉄道事業者となって鉄道運行を確保しているため、妥当性は高い。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	鉄道施設整備事業を施工できる事業者が限定されるため、コストは割高となる傾向がある。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	地域住民の交通を確保するとともに、観光振興を図るためにも、早急な対応が必要である。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	乗車人員が減少しており、経営収支が厳しい状況にある。しかしながら、営業外収益が増加しているため、今後、経営が改善していく見込みはある。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	79	安全な輸送を確保しており、快適な住民生活の安定に寄与している。しかしながら、運行を実施している若桜鉄道(株)は、平成27年度は各補助金を活用して表面的には経営改善がなされているが、輸送人員が減少していく中、今後、営業外収益を着実に伸ばしていく必要があり、一層の営業努力とともに歳出削減策の実施が必要である。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	2	
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	大量輸送や定時運行が可能な若桜鉄道は、地域において重要な公共交通機関であり、近年では、地域資源や観光資源としての価値も見い出され、町外から人を呼込むツールとしても重要性が増しているところである。しかしながら、鉄道の運行・施設管理には莫大な費用が掛かり、国県補助金や過疎対策事業が活用できるとは言え、町の実質的な負担も少なくなく、人口減少や各家庭の経済的負担の大きさ等を要因とする通勤・通学利用客の減少等により営業収益が低迷している状況にある。現在、各種イベントの実施や観光列車化、また、広域観光ルート化や周辺観光施設とのマッチングなどの事業を展開しているが、今後も若桜鉄道が持つ観光資源としての機能強化を着実に進めるとともに、八頭高生を中心とした地域住民の利用促進策も検討されたい。また、平成28年度からは、鉄道車両を若桜・八頭の両町の保有とし、若桜鉄道(株)の経営黒字化を図ることとされているが、若桜鉄道(株)に対しては、一層の営業努力・経営改善を図るよう求められたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 平成27年度は各補助金を活用し表面的には経営改善がなされているが、輸送人員が減少していく中、今後営業外収益を伸ばしていく必要があり、一層の営業努力や歳出削減策の実施が必要である。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 若桜鉄道の経営安定化を促進するため、平成28年度からは、車両も八頭町と若桜町が所有することにより、若桜鉄道の経営においては、黒字化が見込まれる。